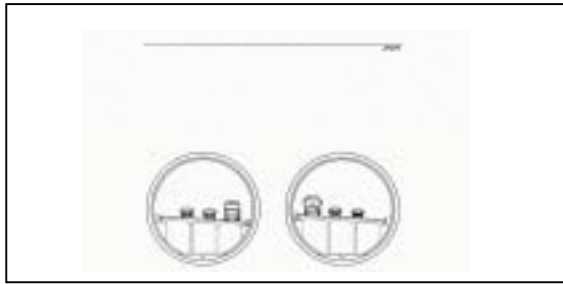


5. 環境への影響

(1) 騒音・振動

インターチェンジがある場合、インターチェンジへの連絡路が半地下構造や地表に現れる付近で、騒音や振動の影響が生じる可能性がありますので、対策を講じる必要があります。

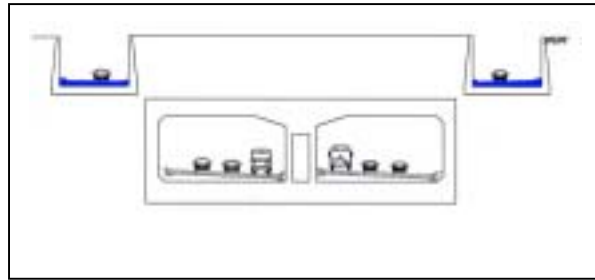
外環本線は地下を走ります



まず、インターチェンジへの連絡路が外環本線から分岐します



次にインターチェンジへの連絡路が地下構造となります



インターチェンジへの連絡路が地表に現れます (アクセス道路に接続)



(環境保全対策の例)

低騒音効果のある高性能舗装
(空隙に空気が逃げ、音が出にくい)



新型遮音壁



吸音処理を実施したトンネル内部



(2) 大気汚染

トンネル内での自動車の排出ガスは、トンネル内のジェットファンなどの機械設備で換気所へ送り、換気所で浮遊粒子状物質 (SPM) などを除去した後、換気塔から大気中へ拡散させることになり、インターチェンジがある場合、インターチェンジ付近に換気所を設置することが考えられます。

トンネル内の排出ガス、連絡路の出入口の自動車からの排出ガスを集中処理する換気所については、機械設備等 (SPM を高効率で除去可能な集じん装置など) を設置することにより、周辺環境への影響を最小限にする必要があります。

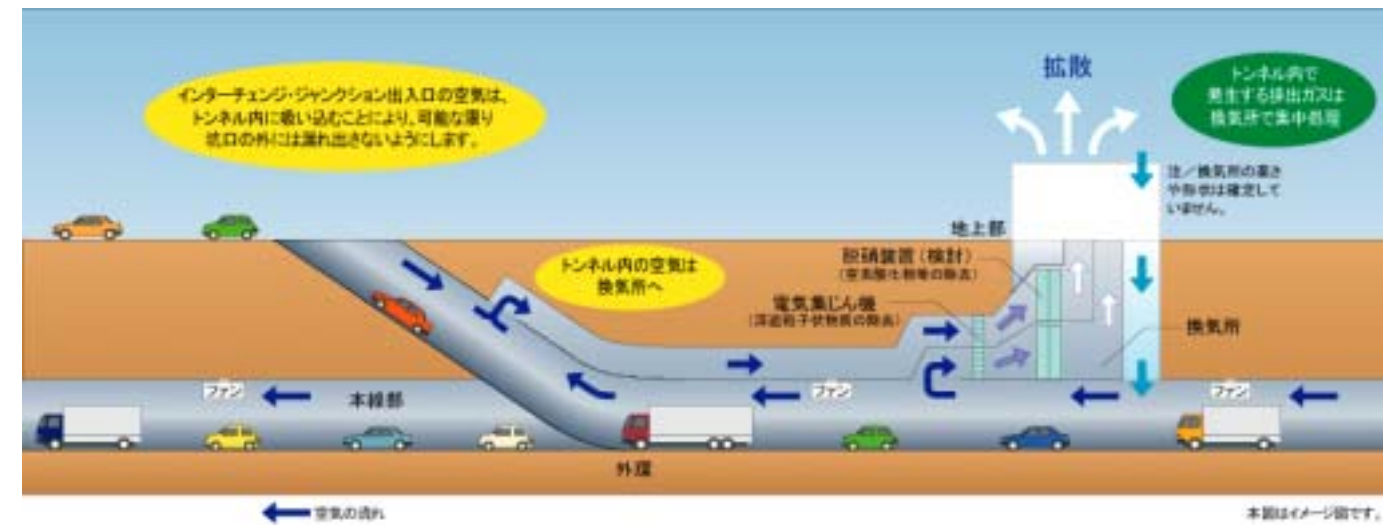


図 インターチェンジ部の排出ガスの処理イメージ